

福 祉

1 研究のテーマ

(1) 研究テーマ

新学習指導要領に準拠した主体的・対話的で深い学びの学習過程の実践

(2) 研究のねらい

本研究では with コロナ時代に校外における現場実習の機会が制限される中において、ICTを活用した事例研究によって生徒の主体的・対話的で深い学びの学習過程を引き出す教授方法について検討した。

2 実践事例

(1) 単元の指導と評価の計画

① 科目名：介護福祉基礎（1年）

② 単元名：生活を支える介護

③ 単元目標：介助を必要とする人の尊厳を支える自立支援の重要性とその方法を理解し、基本的な介助方法を身に付ける。

④ 単元の評価規準：a：関心・意欲・態度 b：思考・判断・表現 c：技能 d：知識・理解

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
・適切な介護の実践に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。	・障がいの特性に応じ根拠に基づいた支援の方法を思考することができる。	・基本的な介助の方法を身に付けている。 ・尊厳を保った支援を展開することができる。	・介助が必要な人の特徴について理解している。 ・適切な介助を行うための根拠を理解している。


⑤ 単元（題材）の指導計画： a：関心・意欲・態度 b：思考・判断・表現 c：技能 d：知識・理解



時間	学習内容	学習活動	評価の観点				評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
1 ・ 2	コミュニケーションと観察	利用者とのコミュニケーションと観察の重要性について考える。		○			b 見ていることと見えていることの違いについて思考することができる。	定期試験 成果物（ワークシート）
3 ・ 4	運動・移動介護の基本（1）・（2）	ボディメカニクスの理論について知る。	○			○	a 自分の身体の仕組みととらえて、主体的に取り組もうとしている。 d 8つのボディメカニクスの原則を理解している。	定期試験
5	食事介護の基本（1）	食事介助の順番と姿勢について知る。			○		c 食事介助の基本を身につけている。	定期試験
6 （本時）	食事介護の基本（2）	視覚障がい者の食事場面を想定し、必要な介助方法についてグループで話し合い実践する。	○			○	a 障がいの特性に応じ根拠に基づいた食事支援の方法について、主体的かつ協働的に取り組もうとしている。 d 食事介助が必要な人の特徴と介助における根拠を理解している。	定期試験 行動の観察（グループワーク） 成果物（動画・ワークシート）

7 ・ 8	排せつ介護の 基本(1)・ (2)	排せつ介助に利用す る福祉用具を理解す るとともに、利用者 にとっての自立した 排せつ行為の意義に ついて考える。		○	○	b 排せつ支援におけるプライ バシーへの配慮の重要 性を理解している。 d 排せつ方法の種類を理 解している。	定期試験 成果物(ワ ーク)
9	着替え介護の 基本	衣服の役割と着替え の目的について考え る。			○	d 片麻痺のある人の着 替え方法について考 察できる。	定期試験
10	入浴介護の基 本	入浴の生理的効果と 心理的効果について 考えるとともに、事 故の予防法について 話し合う。		○	○	b 入浴時に起こりやす い事故の予防法を思 考することができる。 d 入浴による効果を理 解している。	定期試験 行動の観 察(グル ープ ワーク) 成果物(ワ ーク)

⑥ 授業実践例

- ・本時のねらい：食事介助を必要とする人（視覚障がい者）の尊厳を支える食事支援とその方法を理解し、基本的な支援を提供できるようになる。
- ・本時の学習活動

授業展開	学習内容・学習活動	指導上の留意点	評価規準 【評価の観点】
導入 5分	①挨拶・出欠確認 ②本時の学習内容の提示と発問 ・「視覚障がい者の食事の場面において、一番困ることは何か」 ・視覚障がい者への食事支援について、適切な支援方法を考えることを伝える。	・机配置は、グループワークが開始できる形にしておく。（4～5人を1班として設定） <物品> プロジェクター、HDMI、タブレット（班数+1）、お盆と食器のセット（班数）、アイマスク（班数）、不織布（班数）、タイマー（班数）	
展開Ⅰ 5分	③課題理解 ・オリジナル動画Aを視聴し、視覚障がい者の食事場面において起こりうる問題点を知る。 ・mission 「1分間で食事に関する必要な情報を伝える」 ④作業内容を伝える ・ワークシート配付 ・各グループでmissionをクリアするための方法を考え、その実践の様子を動画撮影し、提出することを説明する。<3分>	・動画からどんな危険があるか、どのような点に困っているかを読み取るように指示する。 ・本時で何を考えるべきか、mission内容の補足説明をする。	

<p>展開Ⅱ 20分</p>	<p>⑤【作業：グループワーク1】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・missionの遂行方法を考える。問題点と支援方法について検討<8分> ・動画作成の役割分担を決定する。<2分> 	<ul style="list-style-type: none"> ・全員がグループワークに参加し、一度は発言するように促す。 ・5分後、動画Aを再度流す。 ・班員全員が何かしらの役割を担うように指示する。 <p><役割> 介護者役、利用者役、タイムキーパー、撮影、撮影補助</p>	<p>【関・意・態】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・行動の観察
			
<p>展開Ⅲ 10分</p>	<p>⑥【作業：グループワーク2】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・考えた支援方法の実践、動画の作成<8分> ・classroomへ動画の提出<2分> 	<ul style="list-style-type: none"> ・考えた支援方法を実践しながら、動画の作成を行うように指示する。 ・動画は説明自体を1分以内、動画全体で1分15秒以内にするように伝える。 ・作成が早く終わっても、もっと改善ができる点はないかを検討させる。 ・残り2分になったら、動画が未完成でも提出(投稿)をするように指示する。 	
<p>まとめ 5分</p>	<p>⑦動画の共有</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2～3班程度の動画を全員で視聴 ・良い点、改善できそうな点の共有 <p>⑧視覚障がい者への食事支援方法を学ぶ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「クロックポジション」を用いた配膳方法と説明方法について、オリジナル動画Bを視聴して学ぶ。 <p>⑨本時の振り返りと課題説明</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートへ自己評価の記入 ・学びと感想の記入(ホームワーク)について理解する。 <p>⑩挨拶</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・良い点、改善点が異なる班を作成段階から選んでおく。 ・動画の講評は、必ず良い点と改善点を示す。 <ul style="list-style-type: none"> ・動画再生前に「クロックポジション」について説明。 ・動画B再生後に、改めて留意点等を補足説明する。 <ul style="list-style-type: none"> ・本時の学習内容を振り返る。 ・本時内に行うべき事項と宿題として行うべき事項を明確にする。 ・自己評価が完了し、時間が余った場合に限り、宿題の早期取り組みを許可する。 ・提出期限を明確に伝える。(オンラインによる配信を行い、授業時間外でも確認できるような情報提供を行う) 	<p>【知・理】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート

研究実施校：神奈川県立二俣川看護福祉高等学校(全日制)

実施日：令和3年10月22日(金)

授業担当者：今井 千晶 教諭

⑦ 本時の評価規準

【関心・意欲・態度】

「十分満足できると判断される状況 (A)」と判断される具体的な例	グループ内における自己の役割を適切に理解し、グループワークに主体的かつ協働的に取り組んでいる。
「努力を要すると判断される状況 (C)」と評価した生徒への手立て	グループ内の役割を生徒と一緒に確認するとともに、その役割を実践する際に、どのように参加することが必要か検討を行い、参加方法を提示する。

【知識・理解】

「十分満足できると判断される状況 (A)」と判断される具体的な例	視覚障がい者の特徴について理解し、基本的な食事介助の方法について考察できている。 介護者と利用者の双方の立場から、適切な介助について考えをまとめることができている。
「努力を要すると判断される状況 (C)」と評価した生徒への手立て	障がいの特性(視覚障がい)を踏まえ、どのような介助が必要であったかを考えさせる。 視覚が不自由な人に支援して感じたことや考えたことをまとめさせる。

(2) 主体的・対話的で深い学びの学習過程を引き出す教授方法の成果と課題

本時の授業では、実技を伴う授業内容を、オンライン学習に対応できる教材研究及び授業展開に主眼を置いた。オンライン学習では、生徒が実技を見る機会が不十分となるため、模範実技の動画作成、配信を教員が行い、生徒が主体的に学習できる環境作りを行った。生徒が繰り返し視聴することで、課題解決に向けた検討を共有ができた点が成果として考えられた。また、動画から生徒自身がどのような点が重要であるのか考え、新たな課題を主体的に挙げていた点も成果として考えられた。ICT機器の活用について、本時では生徒全員が個人の端末を所有している形で授業が実施された。その際、個人端末で視聴する生徒と、教室に設置されたスクリーンで視聴する生徒に分かれていた。どちらでの視聴も同じ内容ではあるが、生徒個々に学びやすい視聴環境を生徒自身が選択する機会が設けられたことは、今後の授業展開に役立てられる可能性があると考えた。

課題として、まとめの模範動画を視聴した際、その内容だけを正解ととらえ、他の実技では不正解ととらえてしまう生徒もいることが挙げられた。模範実技の動画であり、一般論としての実技を示しているため、障がい者個々の状況に応じた対応について、今後の学習とリンクさせる点を生徒に説明することが必要であると考えた。

本時は、視覚障がい者が配膳された食事を食べる際に、介助者として必要な支援の検討が主なテーマであった。動画を2つ作成し、生徒が視覚から状況を確認し、他の生徒も同じ情報を共有、認識した上で、必要な対応検討を行った。オリジナル動画Aは、視覚障がい者に食事が配膳され、そのメニューが全く伝えられない状況で視覚障がい者自身が食事を行う内容であった。この動画を視聴し、介助者として「食事に必要な情報を伝える」という課題が生徒に与えられた。動画での問題点を生徒が共有、整理し、望ましい対応を介助者、視覚障がい者双方の視点で実践、検討を行った。また、タブレット端末等、ICT機器を十分に活用できる生徒が多いため、介助者として必要な対応を言語化し、かつ実践した内容を各グループとして撮影、共有することができた。

生徒のコメントから、「何に困るか想像しているつもりで、想像しきれていなかった。危険なこと、難しいことがたくさんあり、それを改善する方法は自分たちだけでは出せなかった」、「情報(提供)がこんなにも食事の安心やスムーズさにつながると思っていなかった」、「言葉より手で触ってもらほうがいいかもと最初から思っていたけど、『利用者様に対して失礼ではないか』『触るのが怖い』『怖いと思われなかな』と思い、自分からはできなかつた」とあった。適切な情報提供と伝える方法、相手(視覚障がい者)が思うことへの配慮も考えられた点は、生徒が主体的に学び、発見した点と考えられた。状況に応じた介護技術を検討、実践することから、生徒が新たな発見を得られたことは、本時の授業としての成果と考えられる。

生徒の実践後に、オリジナル動画Bを用いて視覚障がい者への配膳、食事の説明について介助者として望ましい方法を示した。生徒のコメントには、「食事をお盆で運ばれると、お盆の上すべてが置いてなきやいけないと思っていたけれど、クロックポジションの動画を見て、お盆から出して食事しやすいスペースを作ること食事支援だと思った」とあった。本時の授業では、クロックポジションを活用した視覚障がい者が食事しやすい環境の設定を理解している生徒がいたことが分かる。このことから、生徒が「知識として介護技術を理解する」だけでなく「動画視聴および実践を通して新たな発見」につながられたのではないかと考える。